

2016年上期の回顧と下期の展望

どん底の時期ならではの戦略は?
～課題整理と対処方策～

運輸サービス部会

2016年8月25日

運輸サービス部会の対象業界

- **物流**
- **構内物流・機工・整備**
- **海運**
- **航空貨物**
- **航空旅客**
- **旅行、ホテル**
- **通信、IT**



物流業界

2016年上期の回顧

- ・ 農林省(MAPA)、木材薫蒸処理規制を強化。
- ・ 税関ストライキが慢性化。

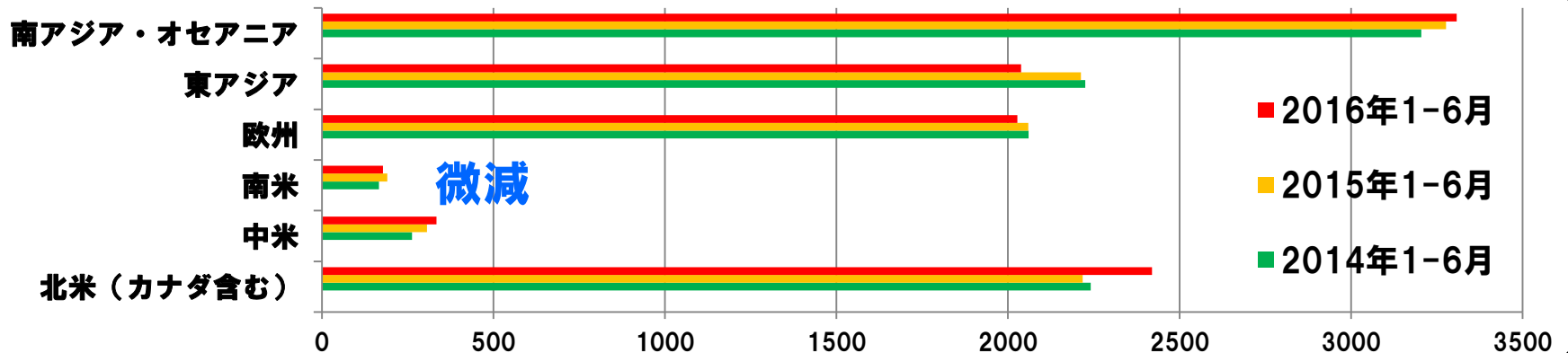
2016年下期の展望

- ・ 税関ストライキによる輸出入貨物の停滞が続く見込み。
- ・ レアル変動による輸入の活性化に期待。
- ・ 引越：日本人駐在員数は帰任者増・赴任者減と予測。

日本発 各地域向け船便引越件数実績動向

(単位 発送件数)

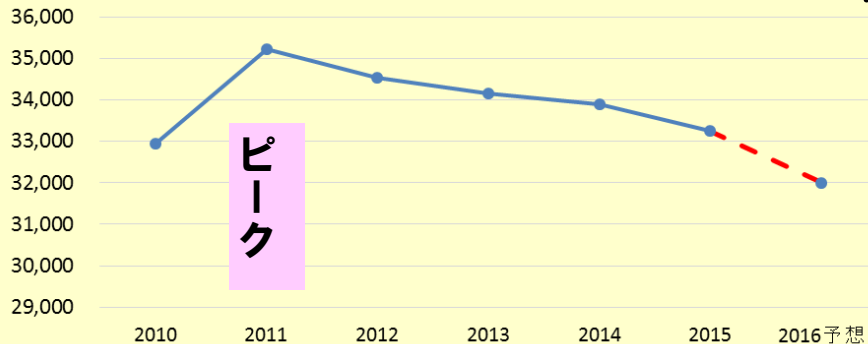
資料提供：日通



鉄鋼業界内：機工・整備・構内物流

2016年上期の回顧

ブラジル粗鋼生産量 (千トン)



鉄鋼業界はコスト維持の為に給与インフレ調整率を0%とし一時金の支払いで組合と妥結し固定費の上昇を避けた。外注協力会社も同様に追従しインフレ調整0%、一時金での対応を実施。

2016年下期の展望

2016年の国内の鉄鋼消費量の予想としては18.2百万トン、これは2006年のレベルに後戻りするものであり、作業量減少はこれまで以上と予想される、更なる経営体質の強化、業務領域拡大が必要となってくる。

- 2016年上期の粗鋼生産量は14.9百万トンと昨年同期比で13%の減少
- 2016年上期国内消費量は9百万トンと前年同期比で23.7%の減少
- 2016年上期販売量は8.2百万トンと前年同期比で15.5%の減少



世界鉄鋼生産実績ランキング (千トン).

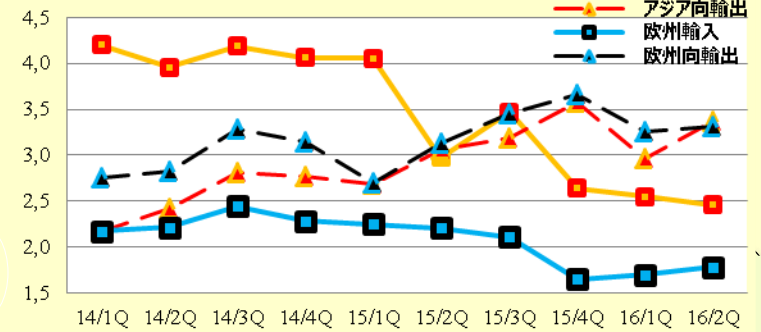
国	Jan/16- Mai/16	Jan/15- Mai/15	15/16	16年 シェア
中国	329,950	335,366	-1.6%	50.1%
EU(28)	68,854	73,536	-6.4%	10.5%
日本	43,180	44,071	-2.0%	6.6%
C.E.I	42,757	42,456	0.7%	6.5%
米国	33,072	33,136	-0.2%	5.0%
インド	38,599	37,682	2.4%	5.9%
ブラジル	12,326	14,311	-13.9%	1.9%
その他	89,489	93,337	-4.1%	13.6%
TOTAL	658,227	673,895	-2.3%	100.0%

海運業界

2016年上期の回顧

- ・コンテナ船: 景気低迷/リアル安 ⇒ 輸入<輸出 の情況継続
 輸入量 97万 TEUs (昨年同期比 ▲20%) ← アジア輸入減大
 輸出量 139万 TEUs (同 +10%) ← アジア/欧州向荷動き増
 輸出入計 236万 TEUs (同 ▲5%)
- ・ばら積み船: 鉄鉱石輸出量 179百万ト (昨年同期比 +4%)
 穀物輸出量 49百万ト (同 +20%)
- ・運賃市況: 船腹需給のアンバランス ⇒ 記録的低水準が継続 (船社経済はどん底)

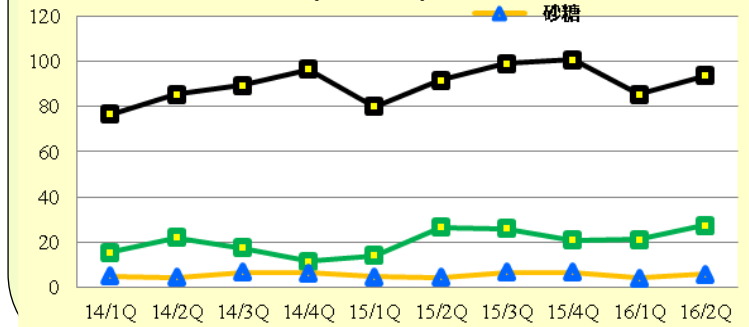
【地域別コンテナ貨物輸出入量推移】 (単位 百万ト)



2016年下期の展望

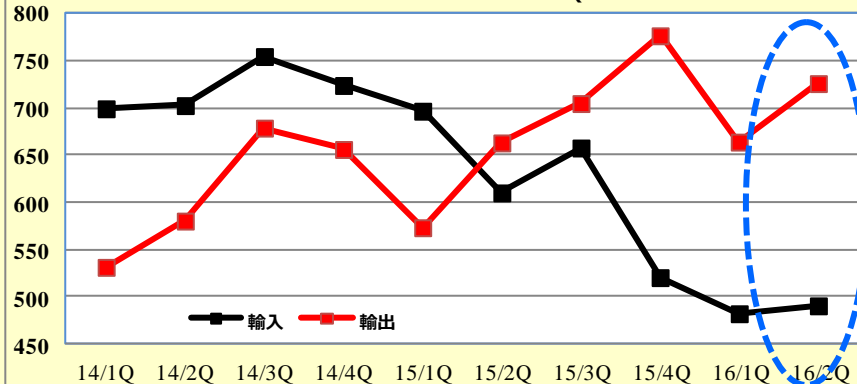
- ・ビジネス環境: 経済は引き続き低迷 ⇒ 輸入量回復の遅れ
 レアル高/BREXIT/投資削減 等 ⇒ 輸出の伸びへの影響
 船腹需給バランス ⇒ 構造的な供給過剰の是正への努力が必要
- ・対応策: 非経済船の処分促進、余剰輸送能力の削減、アライアンス再編、サービスの改編、配船の効率化・稼働率アップ、コスト構造改革 等

【ばら積み貨物輸出入量推移】 (単位 百万ト)

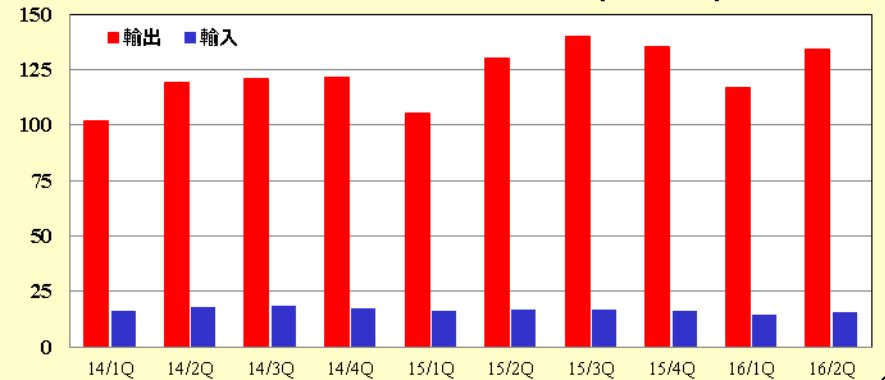


トピック 輸出コンテナ総重量証明の義務化 (SOLAS条約改正) (2016年7月以降) ⇒ 船舶の安全航行へ寄与

ブラジル外航コンテナ貨物量推移 (単位 TEU)

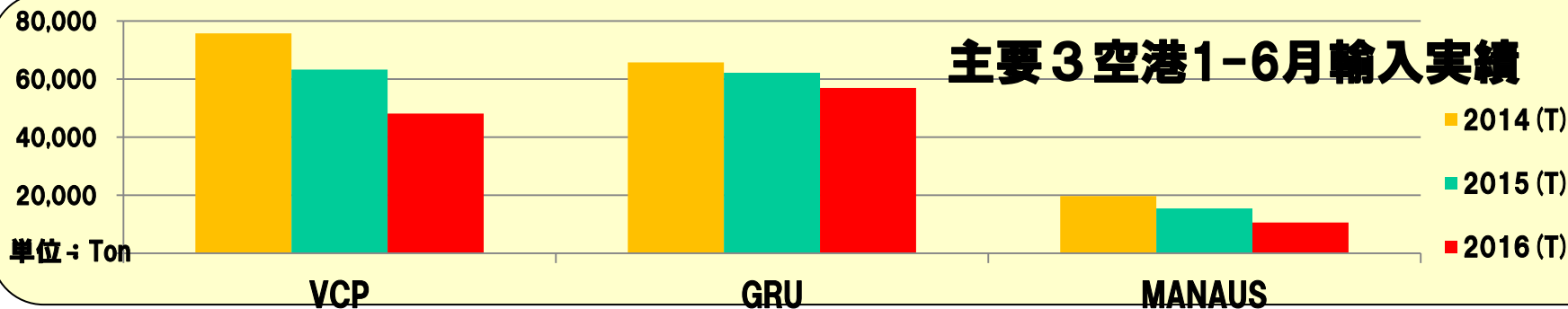


ブラジル外航ばら積み貨物量推移 (単位 百万ト)



航空貨物業界

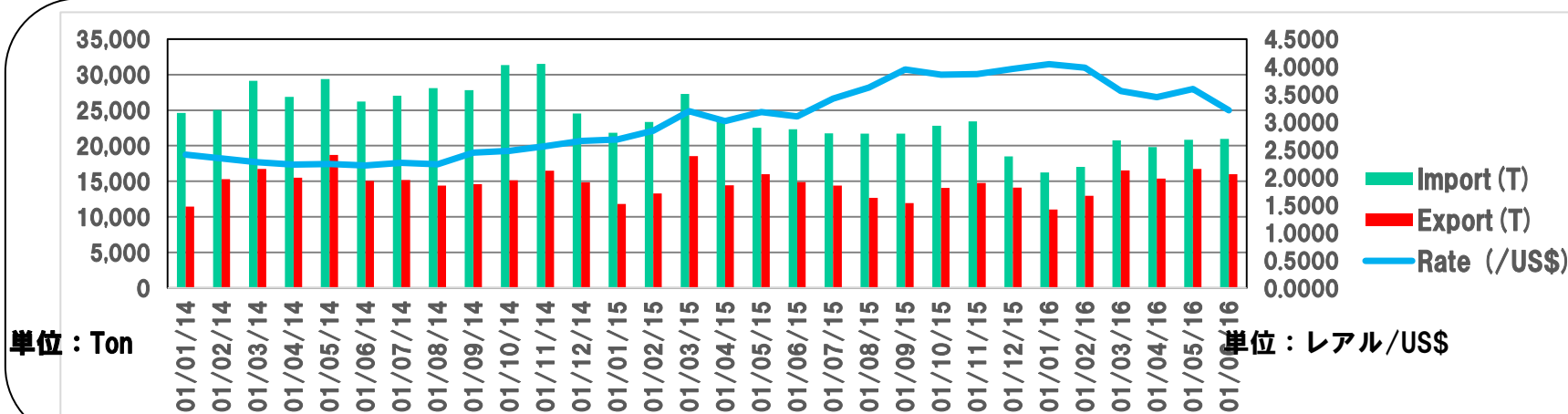
2016年上期の回顧



2016年下期の展望

- ・ レアル安定化で、輸入増に期待。
- ・ 輸入月別取扱量は増加傾向、今後に期待。

GRU,VCP,MAO 3 空港 航空貨物輸出入取扱数量&為替動向 (単位：トン、対US\$)



航空旅客業界

2016年上期の回顧

- 国内線は、ブラジルの景気低迷の影響で、有償旅客キロは対前年▲6.64%、提供座席キロは同▲5.68%、利用率は▲1.02ptとなり、近年にない前年割れの実績。
- 国際線は、ブラジル系航空会社計で、有償旅客キロは対前年▲0.88%、提供座席キロは同▲0.68%で、利用率は▲0.2ptとなったものの、小幅な減少。
- 利用率低迷の打開策として、廉価な運賃での営業競争が激化しており、旅客数の減少以上に収益は悪化。

2016年下期の展望

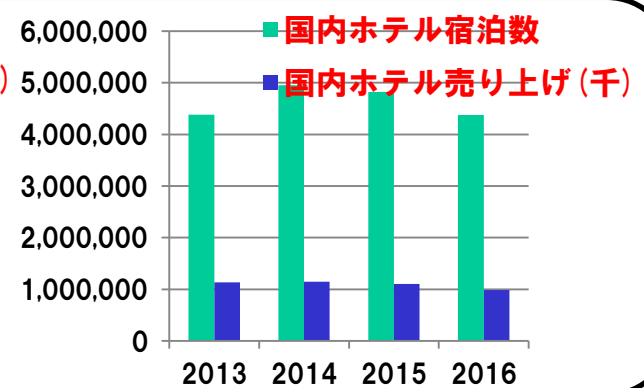
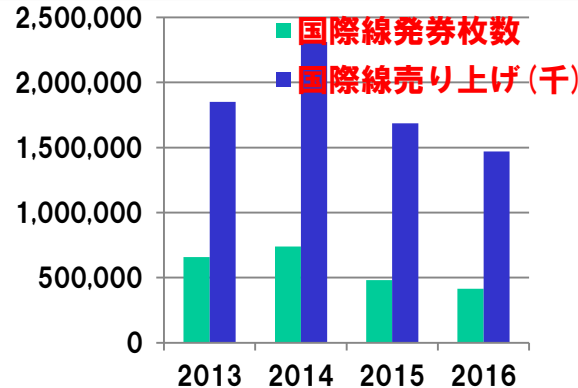
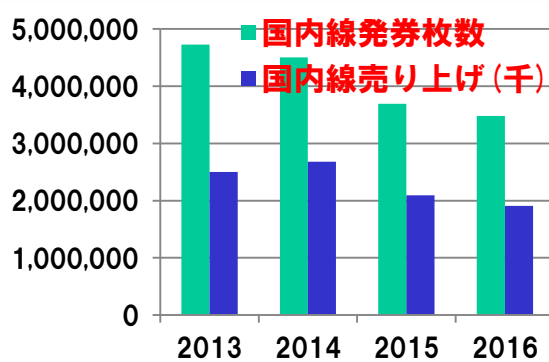
- 国内線は、TAM航空やGOL航空の業績悪化に伴い、両社とも低需要路線を運休・減便する可能性が高く、2015年に比べて、提供座席数や旅客数は低減すると想定。
- 国際線は、オリンピック・パラリンピックの開催に伴って海外からの旅行者は増えるものの、ブラジル経済の低迷と為替の影響（レアル安）で、ブラジルからの出国者数は減少すると思料。
- 国内線・国際線ともに、需給調整やコスト抑制による運休・減便で旅客流動が鈍化することを懸念。

特記・周知事項

- アジア行き国際線 大韓航空が9月25日からサンパウロ＝ロサンゼルス線運休
シンガポール航空が10月21日からサンパウロ＝バルセロナ線運休を正式発表。
- 国際線では、業務渡航や観光による需要が伸び悩んでいる一方で、昨年からの日本へのデカセギ需要が徐々に増加。

旅行業界

2016年上期回顧



2016年下期展望

- オリンピック・パラリンピック開催期間中の8月～9月は国内線航空旅客数と国内のホテル稼働率は増加期待。
- 国際線航空旅客は海外からブラジルへ来る旅客数は増えても、ブラジルから海外へ行く旅客数は増えることは期待できない。
- オリンピック・パラリンピックの期間が終了後は、国内旅行も海外旅行も旅客数は引き続き減少するものと見込まれる。
- ホテルがインターネットサイトにて、旅行代理店に対する販売価格よりも安い料金でオファーしているため、旅行代理店によるホテルの販売が落ち込んでいるが、2016年下期も改善の見込みなし。
- 旅行代理店間での航空運賃割引競争が激化し、航空券販売による収益が激減しているが、この傾向は2016年下期も続くものと見込まれる。

トピックス

■2016年7月1日より同年12月31日までの期間、日本の有効な運転免許証にて運転可能。

官報： <http://pesquisa.in.gov.br/imprensa/jsp/visualiza/index.jsp?jornal=1&pagina=78&data=29/02/2016>

通信業界（テレコム・データセンター）

2016年上期回顧

- インターネットユーザ数：1億3,911万ユーザ（**世界第4位**）
- ブロードバンドのマーケットシェア：NET32.3%、Vivo28.6%、OI24.7%
- ブロードバンドアクセス数：2588万（2016年4月） * 2015年12月調査:2557万
- インターネット普及率は約66.4%（**世界第64位**） * 前回調査：約58%で世界第81位
- Oi（固定電話シェアNo1、携帯シェアNo.4）が史上最大規模となる会社更生手続きの適用を申請し、ブラジル電気通信庁（ANATEL）の監視のもと業務を継続中、様々なシナリオが噂されているが、依然として有力なものはなく不透明な状況。

2016年展望と課題

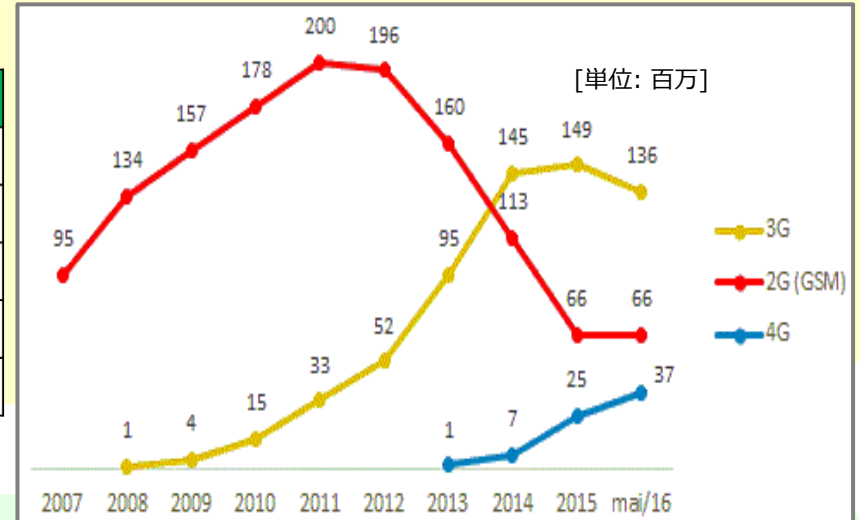
- ブラジルのみならず南米で通信業界再編が活発化
- 電子帳簿公共システム（SPED）の拡大、企業や国民の生活へのITサービスの普及が広まり、IT基盤の低廉化、安定化がより一層求められる
- コモディティ化したICT要素（メール、サーバー等）はより柔軟でコスト効果の高いクラウド型（データセンター）へよりシフトが進むが、通信インフラ基盤の脆弱性がネック
- インターネットがビジネス基盤化する中、大都市中心部以外（郊外の工業団地等）で高速化/安定化/低価格化が求められている

通信業界（携帯電話・モバイル）

2016年上期の回顧

- 4Gの契約数は、前年対比 約1,100万増加。
- 一方で景気低迷の影響により通信事業者の収益は大手4社ともに落ち込んでおり、6月にOi社が会社更生手続きを申請。

	2016年5月 [単位：万]	前年比
携帯電話契約数（全体）	25,523	▲1.0 %
4G	3,655	+43.6 %
3G	13,589	▲8.8 %
2G	6,578	▲0.3 %
データカード等	1,699	▲1.5 %



2016年下期の展望

- 4Gは、今後も堅調に普及が進み、年末までには契約数が4,000万を超える見通し。
- *IoT/M2M向けのモバイル回線の需要が高まっており、年間約10%の増加が見込まれる。

*IoT：“Internet of Things” コンピュータなどの情報、通信機器だけでなく様々な物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信することにより、自動認識や自動制御などを行うこと

*M2M: Machine to Machine、個別に稼働している機器同士をネットワークでつなぎ、これらが相互でやりとりできるようにして、各々の機器で生成されたデータをリアルタイムで統合、制御し、活用することができるシステム

2016年上期の回顧

- 当初、前年比微増（約0.5%）と予想されていたIT投資額が伸びておらず、市場は停滞。
- 「成長の為のIT投資」から「コスト最適化のためのIT投資」へのシフトが加速。
- クラウドサービス向けのオフィスソフトの需要や、コスト抑制に寄与する*SaaS等の需要は堅調。
- ユーザの利便性を向上させるクラウドサービスや、IoTなどのサービス重要は堅調。
- 企業用の基幹システムの開発、特に税制対応、会計情報申請制度対応の重要は堅調。

2016年展望と課題

- 2016年度のIT投資額は、前年度を下回ると予定されている。
- IT活用の促進による、業務効率化、コスト削減のサービス需要は増加すると見込まれる。
- 引き続き、クラウドサービスや、IoT、SaaSなどのサービス重要が見込まれる。
- ブラジルの税制、会計対応の複雑化により、システム対応の投資は継続される。
- 優秀なIT人材の育成や、IT専門家の確保、人件費の高騰へ対応が大きな課題。

*SaaS: “Software as a Service” ソフトウェアを通信ネットワークなどを通じて提供し、利用者が必用なものを必要な時に呼び出し使う利用形態のサービス。

どん底の時期ならではの戦略は？ ～課題整理と対処方策～

<経済回復期はいつか>

- ・ 回復は 2018年と予測。

<課題整理>

- ・ 既存顧客の取扱減少
- ・ メキシコへの日系進出企業の増加に学ぶべき
- ・ 業務渡航や観光による需要の伸び悩み
- ・ 人件費を含むあらゆる項目の費用削減が必要

<対処方策>

- ・ 新規サービスの展開
- ・ 工業会の発展を促す政策実施要請
- ・ 文化・スポーツ・芸術等の分野での日伯間の交流活発化
- ・ 税金面のブラジルコストの抜本的な見直しを政府に要請
- ・ 人件費を抑制できる地域へのオフショアやニアショアの活用

ご清聴有難う御座いました。



運輸サービス部会一同

(資料) 航空旅客

参考：ブラジルとの2国間の輸送実績（2015年版、年間10万人以上）

順位	国名 (ブラジルとの2国間)	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)	シェア (%)
1	アメリカ	5,379,356	14,738	25.1
2	アルゼンチン	3,067,647	8,405	14.3
3	ポルトガル	1,419,333	3,889	6.6
4	チリ	1,408,546	3,859	6.6
5	スペイン	975,694	2,673	4.5
6	フランス	970,423	2,659	4.5
7	パナマ	925,300	2,535	4.3
8	ドイツ	844,153	2,313	3.9
9	ウルグアイ	618,583	1,695	2.9
10	イギリス	594,153	1,628	2.8
11	ペルー	563,457	1,544	2.6
12	イタリア	502,446	1,377	2.3
13	コロンビア	477,723	1,309	2.2
14	アラブ首長国連邦	426,374	1,168	2.0
15	オランダ	398,910	1,093	1.9
16	メキシコ	352,659	966	1.6
17	パラグアイ	304,322	834	1.4
18	カナダ	205,932	564	1.0
19	南アフリカ	169,937	466	0.8
20	ドミニカ共和国	169,450	464	0.8
21	スイス	160,256	439	0.7
22	ボリビア	148,729	407	0.7
23	カタール	130,150	357	0.6
24	アンゴラ	101,735	279	0.5

データ元：ANAC

<トピックス>

- 米国との2国間旅客数が圧倒的に多く、全体の25.1%を占めている。
- 歴史的背景（含 移民政策）から、欧州諸国との旅客流動は大きい。

(資料) 航空旅客

参考：国際線路線別実績（2015年版、年間20万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝ブエノスアイレス	1,570,707	4,303
2	サンパウロ＝マイアミ	1,310,697	3,591
3	サンパウロ＝サンティアゴ	1,064,475	2,916
4	サンパウロ＝ニューヨーク	764,282	2,094
5	サンパウロ＝マドリード	676,610	1,854
6	リオデジャネイロ＝ブエノスアイレス	577,120	1,581
7	サンパウロ＝パリ	573,153	1,570
8	サンパウロ＝オーランド	503,288	1,379
9	サンパウロ＝モンテビデオ	442,887	1,213
10	サンパウロ＝ロンドン	439,485	1,204
11	サンパウロ＝フランクフルト	432,833	1,186
12	サンパウロ＝ボゴタ	396,280	1,086
13	サンパウロ＝パナマ	394,539	1,081
14	サンパウロ＝リマ	366,037	1,003
15	リオデジャネイロ＝マイアミ	341,753	936
16	リオデジャネイロ＝パリ	329,370	902
17	リオデジャネイロ＝サンティアゴ	307,146	841
18	サンパウロ＝アスンシオン	293,678	805
19	サンパウロ＝リスボン	286,499	785
20	サンパウロ＝メキシコシティ	282,822	775
21	リオデジャネイロ＝ニューヨーク	245,706	673
22	サンパウロ＝アムステルダム	239,358	656
23	リオデジャネイロ＝リスボン	229,998	630
24	サンパウロ＝アトランタ	226,423	620

<トピックス>

- ▶サンパウロ＝ブエノスアイレス間の旅客数は多く、年間約1,570千人を超える。
- ▶米国マイアミは非常に人気が高く、特に富裕層はマイアミのリゾートホテルで休日過ごし、買物を楽しむ傾向にあり、利用旅客の大半が観光目的である。

(注)

サンパウロ … グアリュージュス空港、ヴィラコッポス空港
 ブエノスアイレス… エセイサ空港、ホルヘ・ニューベリー空港
 マイアミ … マイアミ空港、フォートローダーデール空港
 ニューヨーク … JFK空港、ニューアーク空港

データ元：ANAC

(資料) 航空旅客

参考：国内線路線別実績（2015年版、年間80万人以上）

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ＝リオデジャネイロ	8,747,896	23,967
2	ブラジリア＝サンパウロ	4,375,481	11,988
3	サンパウロ＝ポルトアレグレ	4,232,096	11,595
4	サンパウロ＝ベロオリゾンチ	3,721,498	10,196
5	サンパウロ＝クリチバ	3,463,754	9,490
6	サンパウロ＝サルヴァドール	3,053,962	8,367
7	サンパウロ＝レシフェ	2,241,660	6,142
8	サンパウロ＝フロリアノポリス	2,139,766	5,862
9	ブラジリア＝リオデジャネイロ	2,063,187	5,653
10	サンパウロ＝フォルタレザ	1,812,776	4,967
11	サンパウロ＝ゴイアニア	1,784,476	4,889
12	リオデジャネイロ＝ベロオリゾンチ	1,399,169	3,833
13	リオデジャネイロ＝サルヴァドール	1,397,767	3,829
14	サンパウロ＝ヴィトリア	1,312,301	3,595
15	サンパウロ＝クイアバ	1,233,923	3,381
16	サンパウロ＝ナヴェガンテス	1,195,414	3,275
17	リオデジャネイロ＝ポルトアレグレ	1,179,418	3,231
18	リオデジャネイロ＝ヴィトリア	1,159,339	3,176
19	ブラジリア＝ベロオリゾンチ	1,047,527	2,870
20	サンパウロ＝イグアス	914,027	2,504
21	サンパウロ＝カンポグランジ	913,871	2,504
22	サンパウロ＝マセイオ	881,310	2,415
23	ブラジリア＝サルヴァドール	864,704	2,369
24	サンパウロ＝ナタル	863,235	2,365
25	リオデジャネイロ＝クリチバ	859,277	2,354
26	リオデジャネイロ＝レシフェ	854,418	2,341

データ元：ANAC

<トピックス>

- サンパウロ＝リオ・デ・ジャネイロ間の旅客需要は旺盛で、国内線全体の約9.1%を占め、1日当たりの旅客数は24千人弱である。
- 上記2都市と、現首都ブラジリア、旧首都サルヴァドールを結ぶ路線の需要は比較的大きい。
- 同様に、上記2都市と、ブラジルで4番目の人口を有するベロオリゾンチ、5番目の人口を有するフォルタレザ、港湾都市である北部のレシフェ、南部のポルトアレグレを結ぶ路線は、結構な流動数がある。

(注)

サンパウロ・・・ グアリュウリョス空港、コンゴニャス空港、
 ヴィラコッポス空港
 リオデジャネイロ・・・ ガレオン空港、サントス・ドゥモン空港
 ベロオリゾンチ・・・ コンフィンズ空港、パンプーリャ空港

世界のインターネットユーザ数比較

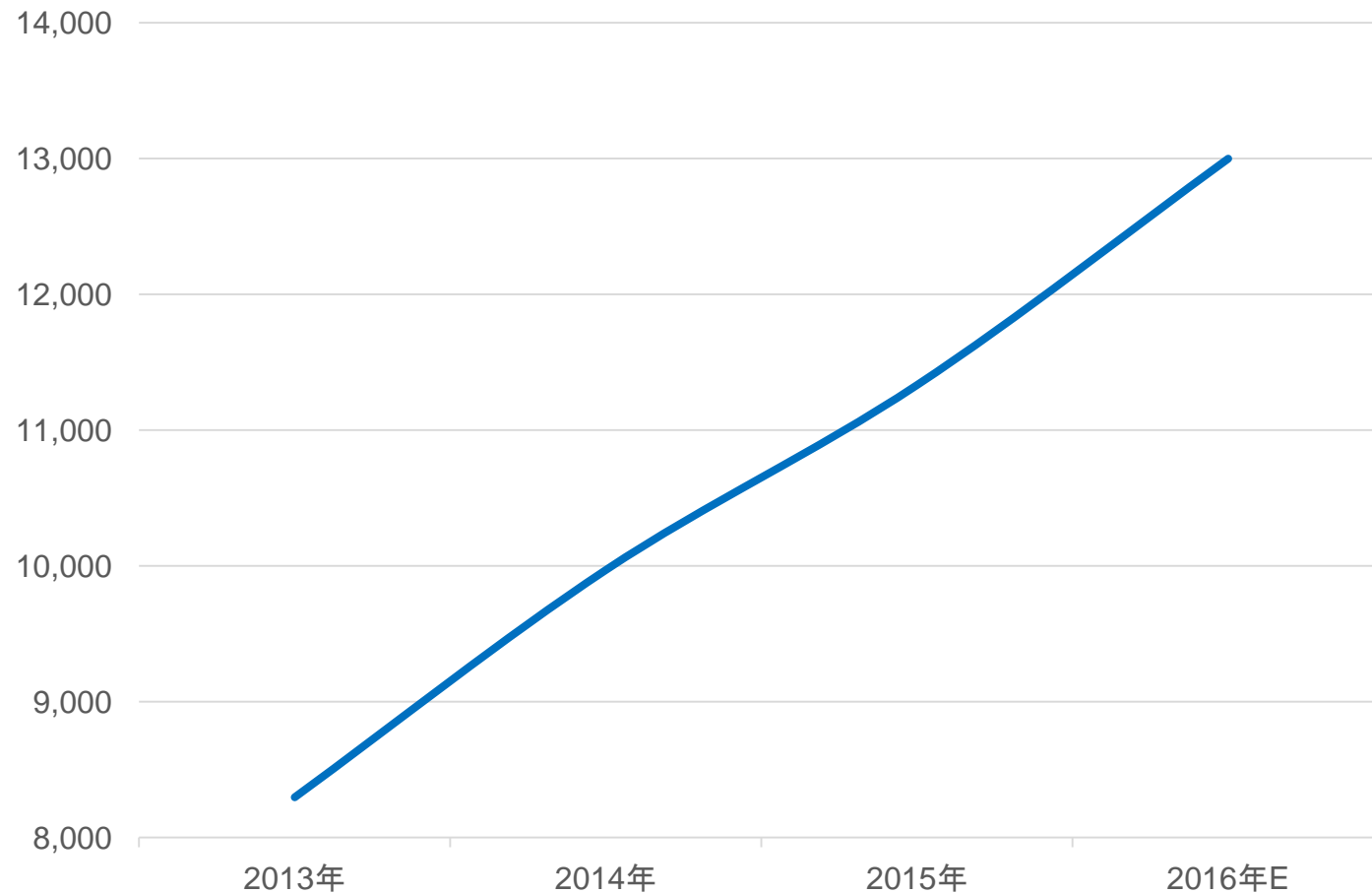
インターネットユーザ数では、ブラジルは1億3,900万ユーザで世界第4位、日本は次いで5位。

	国	2000年	2016年 (推定)	2016年 (ユーザ比率)
1 ^o	中国	22.500.000	721,434,547	52.2%
2 ^o	インド	5.000.000	462,124,989	34.8%
3 ^o	米国	95.354.000	286,942,362	88.5%
4^o	ブラジル	5.000.000	139,111,185	66.4%
5 ^o	日本	47.080.000	115,111,595	91.1%
6 ^o	ロシア	3.100.000	102,258,256	71.3%
7 ^o	ナイジェリア	200	86,219,965	46.1%
8 ^o	ドイツ	24.000.000	71,016,605	88%
9 ^o	英国	15.400.000	60,273,385	92.6%
10 ^o	メキシコ	2.712.400	58,016,997	45.1%
11 ^o	フランス	8.500.000	55,860,330	86.4%
12 ^o	インドネシア	—	53,236,719	20.4%

ブラジルにおけるIoT/M2M向けモバイル回線数の推移

IoT/M2M向けのモバイル回線数は、急激に伸びており、2016年末までに約1,300万回線に達する見通し。

[単位：千回線]



(Source: <http://www.teleco.com.br/>)